



発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418  
418, Komei-cho Tsu-shi  
TEL 059-226-2766  
FAX 059-229-0967

DONC どんく

N°90 janvier 2011 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE



〒514-0006  
三重県津市広明町418  
TEL 059-226-2766  
FAX 059-229-0967

HOME 協会概要 フランス語講座 生配信動画 会報 DONC 会員からのご声 お問い合わせ

# 三重日仏協会 ホームページが生まれ変わる <http://donc.sub.jp>

三重日仏協会は2001年始めてホームページを開設しましたが、力不足もあって内容が伴わないまま10年を経過しました。昨年夏の定期総会ではこの反省に立って改めてHPを充実させる方針が提起され、矢野理事らを中心に準備をすすめてきたもので、2011年の新年から上記のアドレスで「新装開店」することとなりました。

HPは外部に対しては協会の「顔」であり「名刺」であって、会のプレゼンスを広く発信するとともに、会員相互を結ぶ広場となり得るものです。年数回発行の会報〈donc〉では十分に果たせないリアルタイムの情報の提供をめざしながら、会員各位のアクセス、閲覧のみならず積極的な参加を期待しております。お手紙、写真などHP管理者の下記まで送ってください。

getz-evans1964@rmail.plala.or.jp または

〒514-1111 津市久居桜ヶ丘1900-168 矢野隆嗣

(パソコンでご覧になれない方のために、内田淳正会長の巻頭言を2面に掲載しました)



## ホームページ改装にあたって 会長あいさつ

三重日仏協会

会長 内田 淳正

三重日仏協会の目的は三重県内において日仏両国の相互理解と友好を深め、文化交流に寄与することです。

実際にはフランス語の勉強会や文芸講演会などを開催したり、フランス料理やワインを楽しんだりして、フランスに興味を感じている人々の交流を深める会と考えて下さい。私自身フランスを訪問したのは学会や研究会で5, 6回だけですので、フランスのことをよく知っているわけではありませんが、会長を務めています。それを知れば、そんなに堅苦しい会でないことを判って頂けるでしょう。できるだけ多くの人々がフランスというキーワードで集まって会話を楽しむが大切です。

フランス小話にこんなのがあります。ドイツ人の旅行者を見てパリっ子はささやき合う。「何であんなに罵り合うの?」「罵り合ってなんかいないよ。あの人たちは、フランスの生活の穏やかさについて話しているんだよ」と賢人は答えました。フランス語の穏やかさを讃える話です。同じことが日本語と中国語の間でも言えます。フランス語も日本語も実に優しい響きを持った言葉です。文化的背景も似通っているのでしょうか。しかし、歴史的には日本はドイツと、フランスは中国との関係が深かった時期が長かったように感じています。お互いないものねだりでしょうか。

リヨンでの私の経験です。夕食のために旧市街にあるレストランに入りました。メニューの全てがフランス語、どんな料理かまったく判りません。女将さんに英語で尋ねても、フランス語での返事で、会話になりません。ままよと適当に注文しましたが、美味しいフランス料理のフルコースが楽しめました。これがフランス人氣質でしょうか。

コートダジュールの海岸で決して若くはない女性の若々しいトップレス姿に驚き、「なぜ」と問いかけると、「あなただって上半身は裸じゃん」との答え。男女の区別を嫌がるフランス女性の真髓か。

モンサンミッシェルは厳しい環境の修道院、修行の場、巡礼者の聖地であったが、現在は世界的観光地です。観光客が去った後の寺院の静寂と不気味さを味わってそここの歴史に触れられるのでは。日本にもこんな場所があります。高野山、夜中の奥の院参道では不気味さの中に心の琴線に迫るものがあります。日本人もフランス人もよく似た感性でしょうか。

フランスでのほろ苦い思い出、楽しい経験をワインを飲みながら語らしましょう。

会長挨拶らしくないところがフランス的でしょうか。

(三重大学学長)

## 熟年フランス短期留学 ～モンペリエでホームステイ～

矢野 秀美

娘が大学時代にフランスに留学したことをきっかけに、フランス語を学び始め、「…の手習い」も2年を越えた。昨年、憧れだったフランス短期語学留学を計画した。行先は南仏のモンペリエ (Montpellier)、滞在期間は10月1日から10月25日までの約3週間。愛犬の世話を主人に頼んで、半分は意気揚々、半分はドキドキで旅立った。パリ・リヨン駅からTGVで3時間半ほどでモンペリエに到着。モンペリエは古い歴史を感じさせる街で、明るく美しい町並みの旧市街には水道橋、凱旋門、コメディエー広場などがあって市民の憩いの場になっていた。ステイ先は郊外の住宅街、ムッシューはFrançois Schue (モンペリエ大学名誉教授)、やさしい紳士だが



会話はフランス語だけ。マダムは英語も喋れるが、語学学校と連携しているためかフランス語でしか話してくれない。最初はノーマルな早さでクリアーに、次はゆっくりと大きな声で、それでも理解できないと重要な単語だけを何度も繰り返し、最後は英語で説明をと懇願して、ようやく理解できるとマダムは“フー”と大きなため息。そんなことの繰り返しで、幼稚園児になったような毎日だった。マダムは料理が得意で、いつもボリュームたっぷりのコース料理、昼食を控えめにしなくてはならなかった。しばらくすると、マダムが何を言いたいのか、勘を働かせて分かるようになり、緊張せずに過ごせるようになった。私が通った語学学校はコメディエー広場の近くにあり、初級クラスには8人のクラスメートがいて、出身もカナダ、オーストラリア、スウェーデン、メキシコ、スペイン、アラブ、アメリカと国際色ゆたかだった (写真・前列左が私)。ドバイから来た彼は勉強熱心で、電子辞書を巧みにあやつり、覗き込むとキーボードがあのみみずのようなアラビア文字でびっくり。日本人の留学生のほとんどは娘と同じ年代で、仲良くしてもらった。彼女たちは1年間の予定で勉強に来ていて、現在もモンペリエで学び続けているはずである。シニアクラスにはヨーロッパ各地から年輩の方が入学していて、期間もさまざま、南仏の生活を楽しみながら学習していた。授業中にこんな質問をされた。「フランス人の多くは、日本人がとても礼儀正しいと思っているが、それは本当か?」。私はここぞとばかり大きな声で「C'est vrai !」と答えた。短期留学の成果はただひとつ、フランス語の勉強を続けようという気持ちを新たにしたことです。

陰里鉄郎さん 2010年8月死去  
美術評論家。三重県立美術館、横浜美術館などの館長を歴任

小堀 巖さん 2010年11月死去  
日本沙漠学会初代会長・環境地理学。三重大学、東京大学教授、国連大学アドバイザーなどを歴任

両氏はいずれも三重日仏協会草創当時の役員として、会の設立、発展に寄与されました。感謝してご冥福をお祈りいたします。

## 4/10(日) 柏木隆雄 文芸講演会 2011

### —放送大学と共催 県文化会館で—

三重日仏協会主催の名物行事となっている柏木隆雄先生（元大阪大学教授・フランス文学、現放送大学大阪学習センター所長、松阪市出身）による文芸講演会、11回目の今回は放送大学三重学習センターとの共催により下記のように開催されることとなりました。一般公開、無料です。お誘い合わせてご来聴ください。

日 時：4月10日(日曜日) 午後2時～4時

会 場：三重県文化会館2階中会議室

演 題：正岡子規の死生観

—フランス文学者が読み解く子規の自筆墓碑銘—

講 師：柏木隆雄先生

講師のひとこと…子規は生前友人に自分の墓碑銘を書いて送っています。自分で墓碑銘を書いたのはおそらく15世紀フランスの詩人フランソワ・ヴィヨンと彼くらいではないでしょうか。二つの墓碑銘を比べながら、『坂の上の雲』には描かれない子規を見たいと思います。

## ◆伊藤隆之さん(在パリ)が音楽を担当

### 『風の又三郎』のドラマCD

四日市市出身のピアニストでパリで活躍している伊藤隆之さんは、これまでドビュッシーのピアノ音楽全集（4巻）などのCDをフランスで発表してきましたが、今度は日本の著名声優たちによるドラマCD『風の又三郎』（宮沢賢治原作）の音楽（作曲・演奏）を担当。ピアノ、シンセサイザー、ギターによる清冽な音楽です。

CDはすでに発売中で、CD店のほか、Amazonなどのネット販売、または「モモグレ・オフィシャルサイト」で入手できます。税込3,000円。

## ◆グットマンさんがフランスで新刊書を上梓

### <現代日本における神道と政治の関係>

本会常務理事で三重大学人文学部で教鞭をとるThierry GUTHMANN（ティエリー・グットマン）さんが、このほどその研究の成果をまとめた論文をパリの出版社から発表しました。

パリ L'Harmattan社刊 <Shintô et politique dans le Japon contemporain>

204ページ 20ユーロ。フランスのAmazon または東京の「フランス図書」で購入できます。

グットマンさんのひとこと……

2000年の森喜朗首相(当時)の『日本は神の国』という発言が私の研究の出発点となった。森首相のこの演説は実は神道政治連盟国会議員懇談会という集まりでおこなわれたものである。当時200人以上の国会議員がそのメンバーだったことに興味をひかれた。そこで3年間かけて神道政治連盟の正体について調べ、この圧力団体と自由民主党の関係を明らかにしようとした。研究の結果は本書の前半の3章で明らかにされ、後半の2章では現代フランスやアメリカと日本の事例の比較を通じて、民主主義体制における政治と宗教の関係モデルの構築を試みた。